令和元年 ９ 月 ５ 日

平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　３５人	算数　３５人	理科　３５人
第５学年	国語　４２人	算数　４２人	理科　４２人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

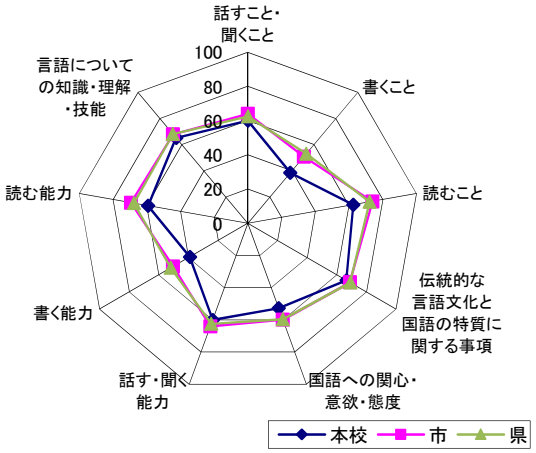
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	60.0	64.0	62.5
	書くこと	38.6	50.9	53.1
	読むこと	62.6	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.5	68.9	69.1
観点	国語への関心･意欲･態度	52.7	59.9	59.7
	話す･聞く能力	60.0	64.0	62.5
	書く能力	39.1	50.4	52.0
	読む能力	59.2	69.3	67.6
	言語についての知識･理解･技能	65.2	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

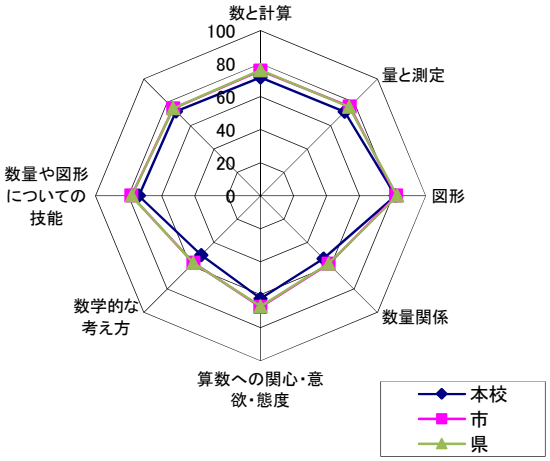
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「大事なことを落とさないように聞き取る」「話し方の工夫に注意して聞き取る」の設問では，県や市の平均正答率と同等であった。「聞き方あいうえお」を活用して基礎的な学習態度を養ってきた成果と言える。 ●「話題に沿った意見と理由を考える」設問では，県の平均を下回った。目的に応じて適切に文章表現する機会を意図的に設けて，表現力育成に努めているところである。	･「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」等を意識させ継続して基本的学習態度の定着を図る。 ･授業の中で，ペア･グループ･全体と形態を変えて話合い活動を意図的に取り入れているが，今後も継続していく。 ･発言した後に，「どうしてそう思ったの？」等の理由を聞くことで，理由を挙げながら自分の考えを説明する力を身に付けさせていく。 ･日常生活でも時と場に応じた適切な対話ができるよう指導して
書くこと	●「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考える」「書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」「理由や事例を挙げて文章を書く」等，書くことの設問では全てにおいて県や市の平均を大きく下回った。無回答率も33．3%と高く，今後の大きな課題である。	･国語の授業だけでなく，日頃の授業の中でも体験と結びつけた書く活動を意図的，継続的に取り入れるなど，文章を書くことに慣れさせていく。 ･書くことに抵抗感をもつ児童には，文章の型を設定して書かせるなどして苦手意識を解消する支援をしてきたが成果には至っていない。今後も継続して抵抗感解消と技能の向上を図る。
読むこと	○「段落の役割を理解して，文章の内容を的確に読み取る」の設問では、県の平均とほぼ同等であった。 ●「場面の様子を読み取る」「登場人物の気持ちを読み取る」「文章の内容を的確に読み取る」いずれの設問において県や市の平均を下回った。授業中に，文章中の言葉に着目した読み取りを行っているが，読解力向上には至っていない。	･読み取りのポイントになる内容（表現）に着目させて自分の考えをまとめていくことにより，読み取りの手法を体感させていく。 ･説明文の学習では，文章の構成を意識させながら，キーワード･キーセンテンスを見つけて文章の内容を理解させる活動を今後も継続的に行う。 ･文章のまとまりを意識させ，まとまりごとに内容が理解できるよう丁寧な指導を心がけ，継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「ローマ字のつづりを理解している」の設問では，県や市の平均を上回った。児童が興味をもって取り組んだ成果と言える。 ●「文の構成（主語と述語）について理解している」の設問では，正答率21．2%とかなり低く，県や市の平均を大きく下回った。文の構成についての理解が不十分と言える。	･ローマ字に関しては，朝の学習や家庭学習等で繰り返し触れる機会を設け，継続的に定着を図っていく。また，日常生活の中でも，身近にあるローマ字を意識させていく。 ･文の構成，特に「主語」と「述語」に関しては，授業の中で再確認を行い，朝の学習や宿題等でプリント学習を行い，習熟を図っていく。

宇都宮市立富屋小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.7	75.8	76.1
	量と測定	71.9	76.5	76.0
	図形	81.8	82.1	82.7
	数量関係	53.9	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	62.3	67.4	67.0
	数学的な考え方	50.9	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	73.7	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	72.4	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

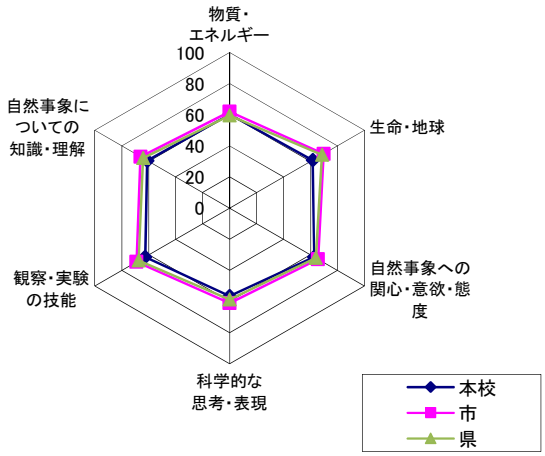
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「計算の復習」については県や市の平均を上回った。「数と計算」のその他の設問についても県や市の平均とほぼ同等であった。朝の学習等で重点的に計算練習に取り組んだ成果と言える。 ●かけ算の問題や「整数－小数第一位の計算」の設問に関して，正答率が低く，県や市の平均を大きく下回った。計算の基礎事項の確認が必要である。	・朝の学習や家庭学習等で習熟を図ると共に，今後も学力向上週間を設けるなどして基礎基本の定着を図る。 ・少人数指導担当教諭と連携し，一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。
量と測定	○「はかりの目盛りの読み方」に関する設問では，県や市の平均を上回った。 ●「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」「道のりの意味を理解している」等の設問で県や市の平均を大きく下回った。	・身近な物を教材として取り入れ，日常の生活と学習内容を関連して考えられるようにする。 ・実際に長さを測ったり，重さを量ったりするなど体験学習を積極的に取り入れることで，量感を養っていく。 ・算数の学習だけではなく，日常生活の中で，重さや長さ，時間などを話題にすることで，量感に対して意識を向けていく。特に時刻と時間に関する基礎知識を定着させていく。
図形	○「円の直径」についての設問や正三角形の作図については，正答率が高く，県や市の平均を大きく上回った。図形の基礎的事項の定着が図られた結果と言える。 ●「球の半径から，球が2個入った箱の辺の長さを求める」設問では，正答率が低く，県や市の平均を下回った。数学的思考を要する問題に抵抗感をもつ児童が多く，大きな課題である。	・朝の学習等で，基礎基本の定着を図る。 ・基礎基本の問題を解くだけでなく，チャレンジ学習や学力向上強化週間に活用問題を解かせるなど，その考え方を理解させるような機会を意図的に設定していく。 ・用語の意味の理解にとどまらず，基礎となる事項や意味をきちんと理解させた上で活用できるよう習熟を図る。
数量関係	○棒グラフに関する記述問題では，正答率は低いが県や市の平均を上回った。基礎的知識を活用して記述しようとする意欲的な取組が見られた。 ●「棒グラフを正しく読み取る」設問については，県や市の平均を下回った。グラフの読み方についての理解が不十分であったと言える。	・棒グラフなどは，理科や学級活動など他教科や領域でも読んだり書いたりしている。今後も合科的な場面で，棒グラフ等を活用し，読み書きに慣れるよう指導する。 ・教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて，学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。

宇都宮市立富屋小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.2	61.9	59.4
	生命・地球	61.6	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.6	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	56.5	61.0	58.8
	観察・実験の技能	62.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	61.1	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「磁石の性質」についての設問は，いずれも県や市の平均と同等以上の結果であった。磁石の性質について十分理解していると言える。 ○「物の重さ」についての設問では，県や市の平均を上回った。記述問題も，県や市よりも平均正答率が高かった。 ●「日光を集めて火をおこす」ことに関する設問では，県や市の平均を下回った。	・同じ実験の中で条件を変えて予想し，結果を比較するような学習活動を多く経験させる。 ・実験結果をきちんと読み取り，違いが生じた理由などを自分で見つけられるように，今後も継続して指導する。 ・実験・観察による変化や様子にしっかり着目させ，口頭や記述による説明等の対話的な言語活動を重視し，児童相互に意見や考えを交流し合って理解を深められるようにする。
生命・地球	○「アブラナとタンポポの違い」「ダンゴムシの観察」に関する設問では、県や市の平均を大きく上回った。日常生活の中で自然に触れる機会が多いことに起因していると考えられる。 ○「温度計の読み方」，「日なたと日かげの地面の温度の変わり方」に関する設問では県や市の平均と同等以上であった。実際に温度計を使って気温や地面の温度を測定したことで，温度計の使い方が身に付いたと言える。 ●植物のからだのつくりや育つ順序についての設問では，県や市の平均をいずれも下回った。植物の生態に関する基礎的事項の確認が必要である。 ●「遮光板を使って太陽を見る」「太陽とかげの動きについて理解している」の設問では，県や市の平均を下回った。特に遮光板についての設問は，正答率が低く，県や市の平均を大きく下回った。	・生物を観察するための道具の適切な扱い方については機会あるごとに指導し，基礎的・基本的な既習内容の定着を図る。 ・家や学校などの日常生活の場において，方位方角をきちんと認識できるように指導していく。 ・各単元末には，自分なりの表現の仕方で学習のまとめをさせることで，基礎的事項の定着を図っていく。各自の学習のまとめについては，学級内で交流し，学習のまとめ方のスキルアップも目指していく。

宇都宮市立富屋小学校 第４学年 児童質問紙調査

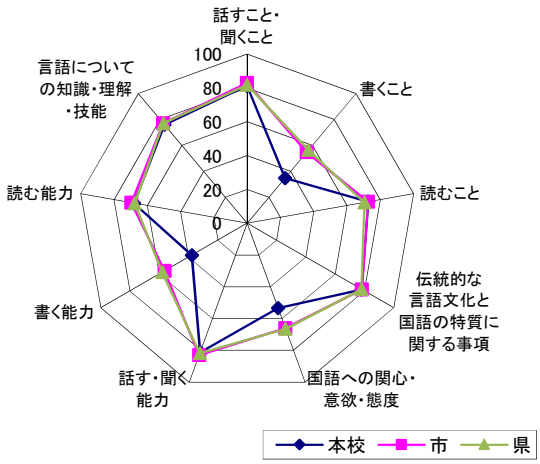
★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問では，県や市の平均を上回った。帰宅後の生活のリズムができ，自主学習が習慣化していることが伺える。今後も継続していけるように，引き続き，家庭での過ごし方の大切さについて指導していく。
○「勉強していて，不思議だな，なぜだろうと感じることがある」「疑問や不思議に思うことは，分かるまでしらべたい」の質問では，県・市の平均を上回った。今後も引き続き，興味や関心がもてる学習内容や学習方法を工夫し，児童の探究心を高めるような支援をしていく。
○「勉強していて，おもしろい・楽しいと思うことがある」の質問では，県や市の平均を上回った。これらの意欲を持続できるように，授業内容や教材，学習形態などを工夫して，児童相互が学び合う機会を増やしていきたい。
●授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと考えている児童が多かった。授業の中で，自分の考えや意見を書く活動を多く取り入れ、徐々に書くことへの抵抗をなくすよう指導するとともに，発表の機会を設けて自信につながるような支援を続けていく。
●「家でテストで間違えた問題について勉強している」の質問に対しては，県や市の平均を大きく下回った。学校では，間違えた箇所をより意識できるよう，必ずやり直しをするよう指導中である。家庭でも，自分の間違いから学ぶことができるように，自主学習の方法や内容について丁寧に指導する。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対して「いいえ」と答えた児童が多い。授業中の様子を見ていると，間違うことに抵抗感があるために，発表することを戸惑う児童が多い。正誤ではなく，様々な考えや意見を交流することで，児童相互の学び合いとなることを体感させるような授業を展開していきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	81.3	82.9	81.8
	書くこと	34.9	54.8	56.5
	読むこと	72.8	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.2	78.4	78.1
観点	国語への関心･意欲･態度	53.4	66.0	66.4
	話す･聞く能力	81.3	82.9	81.8
	書く能力	37.8	56.3	57.9
	読む能力	68.0	69.5	67.6
	言語についての知識･理解･技能	76.1	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

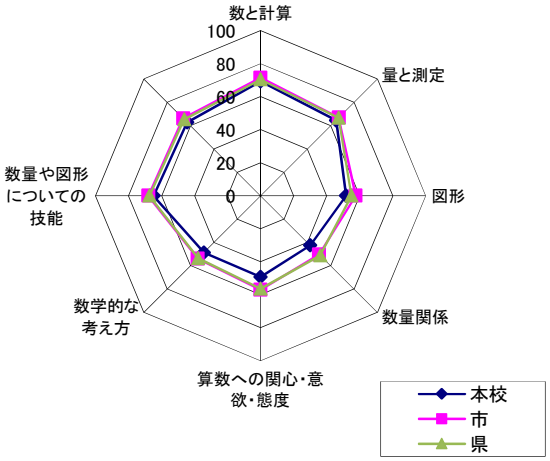
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気を付けて聞き取る」「話し方の工夫に注意して聞き取る」の設問について，正答率が平均正答率とほぼ同じであった。また，「話し方の工夫に注意して聞き取る」の設問について，正答率が県の平均正答率を上回った。「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」を活用し，基礎的基本的な学習態度を指導してきた成果と言える。	･今後も「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」を活用し，基礎的基本的な学習態度の定着を図る。 ･小集団の中で話合い活動を多く取り入れ，司会等の役割を交代しながら，相手の考えを聞いたり，自分の考えを話したりする場を設定する。その中で，様々な意見を聞き，自分の意見と比べられるようにする。
書くこと	●「情報を適切に読み取り，ポスターの文を書くことができる」や「指定された長さで，２段落構成で文章を書くことができる」「自分の考えが明確になるように，具体的に文章を書くことができる」等の設問について市や県の平均正答率を下回った。また無回答の割合が38％と高い。	･国語だけでなく，総合的な学習の時間や学校行事などの振り返りを通して文章を書く機会を多く設定し，自分の考えや思いについての文章を書くことに慣れさせていく。 ･条件を付けて文章を書かせたり，資料から読み取ったことや考えたことを書かせたりするなどの活動を取り入れ，スキルの向上を図る。
読むこと	○「場面の様子を読み取ることができる」「文章の内容を的確に読み取ることができる」の設問は，県の平均正答率を上回った。 ●「段落のまとまりを理解して，文章の内容を的確に読み取ることができる」の設問は，県の平均正答率を下回った。段落の要旨をまとめる学習を行っているが，的確な読み取りには至っていない。	･物語文の学習では，登場人物の言動だけでなく，場面の様子や，場面の移り変わりにも着目させて読み味わわせる。 ･説明文の学習では，大きなまとまりの中で大切な言葉や文章を見つける学習を通して，文章の内容を理解させるとともに，段落ごとの関係に着目させ，文章の構成について気付かせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「第4学年配当漢字を読むことができる」「第4学年配当漢字を書くことができる」の設問は，県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●「文の構成（連体修飾語）について理解している」「指示語の使い方を理解している」の設問は，県の平均正答率を下回った。文の構成や指示する言葉についての理解が十分ではない。	･漢字については，引き続き授業だけでなく，朝の学習や家庭学習で繰り返し練習させ，定着を図っていく。 ･文の構成，特に修飾語･被修飾語や指示語の指し示す言葉について，繰り返しプリント等で学習していく。 ･日々の学習の中で国語辞典や漢字辞典を使う経験を多く取り入れ，既習事項の定着を図るとともに，言葉に対する意識を高めていく。

宇都宮市立富屋小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.3	71.5	70.4
	量と測定	64.7	67.0	66.9
	図形	51.8	57.6	55.0
	数量関係	42.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	49.2	57.0	56.3
	数学的な考え方	48.6	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	64.9	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	62.9	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

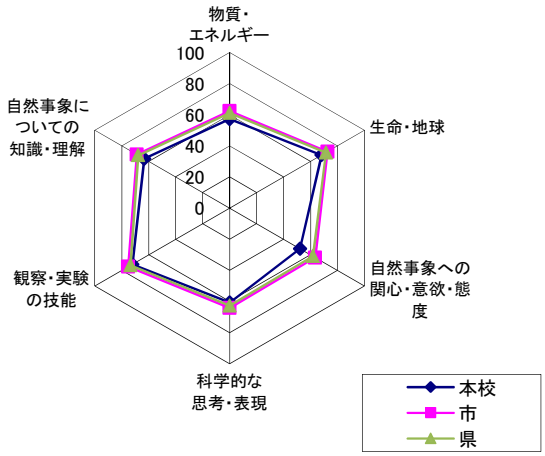
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数÷整数の計算」や「図の相対的な大きさについての理解」は県の正答率を上回った。 ●「あまりのあるわり算」や「重さの単位換算」「概数の範囲」についての設問は県の正答率を下回った。特に「分数の計算（真分数＋帯分数）」において正答率が低かった。仮分数を帯分数に直す学習が定着していないと思われる。	・基本的な計算に習熟できるよう，朝の学習や家庭学習で計算練習の機会を増やし補っていく。 ・少人数指導教諭と連携し，一人一人の学習の実態を把握し，授業内容や課題の難易度を変えながら，指導にあたっていく。
量と測定	●「身近にあるもののおよその面積を理解している」や「5等分した長方形の1つの辺の長さを求めることができる」についての設問は，県の正答率を下回った。 ○「分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方を理解している」の設問は県の平均正答率を上回った。	・問題文が長い問題の正答率が低いので，問題をしっかり把握するために，問題文を黙読だけでなく，音読もさせ，重要部分に線を引かせるようにする。 ・数量を身近なものに例えさせ，数の大きさを日常生活にあるものに置き換えられるようにする。また，授業で学んだことを生活で生かせるようにしていく。
図形	○「直方体のある辺に垂直な辺はどれか」を答える設問は県の平均正答率を上回った。 ●「地図から情報を読み取り，図形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明することができる」の設問では，県の平均正答率も低いがそれをさらに下回った。無回答の割合も21％であった。	・図形に対する基礎的基本的な学習で知識の定着を図る。 ・図形の特徴を理解するだけでなく，特徴を用いて別の問題を考えるといった，活用力をつけるための問題にも取り組ませる。また，自分の考えを言葉で説明させたり，友達の考え方を説明させたりする場面を設ける。
数量関係	●「折れ線グラフと棒グラフを読み取り，それを根拠に理由を説明する」設問で無回答の割合が38％と高かった。「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」など，変わり方を調べる設問でも正答率が低かった。	・複雑な問題について，設問の内容を正しく読み取れるよう，分かっていることや求めることを整理したり，図に表したりするなど解決の手順を考えていけるよう支援していく。 ・友達の考えを聞いたり自分の考えを説明したりする場を多く設け，考えを適切に表現できるようにしていく。また，日頃の学習から自分の考えをてるよう促していく。

宇都宮市立富屋小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.2	62.4	61.1
	生命・地球	68.2	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	52.2	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	72.1	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	63.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「空気でっぽうで空気をおし縮めたときの手ごたえと，空気のもとにもどろうとする力によって玉が飛ぶことを理解している」の設問は81％以上の正答率であった。「水を熱したときの温度変化のグラフを理解している」の設問では，83％の正答率であった。ともに県の平均正答率より高かった。 ●「水が氷になるときの体積変化について説明することができる」の設問では28％，「空気のあたたまり方について理解している」の設問では35％，「電気について理解している」の設問ではの設問では38％であり県の平均正答率より低かった。	・実験から学習した事を活用したり，日常生活に置き換えて考えたりする設問の正答率が低かったので，日頃の実験から予想や仮説を立てた上で，理科の見方・考え方をもとに検証の計画を立て，その実験結果からの考察をし，自分の知識となるようにノート等にしっかりとまとめさせていく。また，単元のまとめを意識的に行い，その現象一つ一つを単体で扱うのではなく，系統的に捉えられるような学習を行うようにする。 ・実験等が行えないものに関しては，映像資料などを活用し，実感を伴った経験をさせていく。 ・記述して答える問題では，無回答が見られるので，授業の中で考察に重点を置き，自分の考えを自分の言葉で表す習慣を身に付けさせる。
生命・地球	○「ウサギの背中がまるく曲がる理由を推測する」や「筋肉がちぢんだり，ゆるんだりすることで身体が動くことの理解」の設問は，県の平均正答率を上回った。また，「半月の動き方を理解する」や「星座早見盤を正しく使うことができる」の設問でも県の平均正答率を10％近く上回った。 ●「１年間の動物のようす」や「１年間の植物の成長」についての設問は県の平均正答率を下回った。また，「気温を正しく測る」の設問は10％，「示された方位から他の方位を推測する」，「容器にふたがあると，蒸発した水は出ていかず，内側に水滴がつくことの理解」の設問は20％近く県の平均正答率を下回った。	・実験器具を実際に使い，使い方を学ばせていく。 ・様々な課題について，観察や実験をとおして得られる事象や結果から，自分の考えを持ち，グループで話合い活動等を行い，様々な視点から問題を解決する力や，自分の予想や考察を説明する力を身に付けさせていく。 ・日常目にしていることを学習と関連付けて再確認していけるように，実験や観察では，気が付いたことや分かったことをノートに記録する習慣を身に付けさせる。

宇都宮市立富屋小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある」「人と話すことは楽しい」の肯定回答割合は県や市の割合を上回っている。
○「学校の宿題は，自分のためになっている。」「勉強していて，不思議だな，なぜだろうと感じることがある」「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」の肯定回答割合は県や市の割合と同等である。「学習して身に付けたことは，将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」」の肯定回答割合も80％以上と県や市の割合と同等である。今後も，学習や生活において，様々な活動を通して，自己肯定感を醸成していきたい。
○「クラスの友達との間で，話し合う活動を通して，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の割合は，県や市の割合と比較しても10％以上上回っている。これは，授業で，ペア学習やグループ学習を多く取り入れ，互いの意見を交換して学び合っていく対話的な活動を重視してきた結果だと考えられる。今後も継続していきたい。
○国語，算数，総合的な学習の時間について，「将来のために大切だと思っている」の肯定回答割合は80％を超えた。また「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」も県や市の割合を上回っている。児童の思いや意欲を今後の学習に生かしながら，より分かる授業を目指して取り組みたい。
●「家で学校の授業の予習・復習をしている」「家で，テストで間違えた問題について勉強している」の肯定回答割合が，県や市の割合を下回った。宿題だけでなく自主学習についても，自分にとって大切な事として捉えさせ，調べ，解決していく喜びを味わわせることで，学習や生活の意欲につなげたい。
●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「自分は勉強がよくできるほうだと思う」の肯定回答割合が，県や市の割合を下回った。高学年という発達段階ではあるが，自己肯定感を高め達成感や自己有用感を育みたい。

宇都宮市立富屋小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示文・言葉の吟味	めあてと学習問題を区別するために提示文の言葉を吟味して，焦点化されためあてを提示している。	「授業では，目標（めあて・ねらい）が示されている。」「授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。」等の質問への肯定回答率は，県や市の割合とほぼ同等である。学習活動を焦点化したねらいを明確に提示し，ねらいに沿って授業を展開してきた結果と言える。今後も継続していく。
課題に対する考えの足跡が残るようなノート指導（板書）	発達の段階に応じたノート指導を行い，各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また，思考の道筋が分かる板書計画と実践（デジカメでの記録など，授業の流れの可視化）を図る。	算数の授業を中心に，思考の道筋が分かる板書の工夫と，発達の段階に応じたノート指導を実践しているが，自分の考えやその理由を書く活動に関する質問の肯定回答率が県や市の平均をやや下回っている。今後も授業の中で「書く」活動を意図的に取り入れ，書くことへの抵抗感をなくしていきたい。
授業におけるまとめ・振り返りの充実（自分の言葉で文章表現させる。）	授業の最後に，本時の課題に対するまとめを板書して全員で確認し，一人一人が分かったことなどを振り返り，ノートに自分の言葉で文章表現する時間を設けている。	めあてに即した「まとめ」の表記と，学習活動を通しての自己の変容を振り返り，文章表現させることを心掛けている。授業における「まとめ」と「振り返り」に関する質問の肯定回答率も県の回答を上回った。今後はさらに，めあてに即した「まとめ」と「振り返り」の実践を強化していく。